

令和４年度第３回半田市スポーツ推進審議会議事要旨

開催日時	令和５年２月２４日（金）	１４時 ～ １５時１５分
開催場所	市役所４階 庁議室	
会議次第	１．開会 ２．中学校部活動改革と地域におけるスポーツ・文化芸術活動のさらなる推進について 資料１－１、資料１－２ ３．スポーツ関係団体向けアンケート調査等の結果について （ア）スポーツ関係団体向けアンケート結果 資料２－１ （イ）指導者向けアンケート結果 資料２－２ ４．閉会	
出席委員 （欠席委員） ※敬称略	【会長】加藤博吏 【副会長】田中益生 【委員】池田智美、日置さと子、渡邊彩、近藤和昭、岩田洋子、清水純一、村松秀樹、田村悦子、（磯貝雅代）、（水野明英）	
事務局	教育長、教育部長、スポーツ課長、スポーツ課主幹 スポーツ課振興担当主査、学校教育課長、学校教育課指導主事	
次 第	議事概要	
【議題】 （１） 中学校部活動改革と地域におけるスポーツ・文化芸術活動のさらなる推進について	（教育長） 日ごろは半田市のスポーツ推進にご尽力いただき深く感謝申し上げます。現在、議題にもあるとおり、中学校部活動改革と地域におけるスポーツ・文化芸術活動のさらなる推進について大きな課題となっています。この課題解決のため、スポーツ推進審議会の皆様からご意見等いただきながら、今年度の会議を進めてきました。今後の中学校部活動の在り方について、地域でのスポーツ推進という観点からも、本審議会での検討は引き続き必要だと考えています。中学生においては部活動があったから救われていた子、逆に部活動があったから苦しんでいた子がいると思	

います。できる限り、子どもたちに不利益や不都合が生じないように、誰でも活動できる場が与えられ、自分の好きなことができるような体制を作りたいと思っています。半田市の「だれでも」「いつでも」「どこでも」「いつまでも」スポーツができる体制作りを皆様のご協力をいただきながら推進していきたいと思っています。

(学校教育課長)

半田市は20年前に休日の中学校部活動を原則禁止としました。しかしながら、指導者不足や謝金等の様々な問題があり、10年ほど前に学校長の判断で、休日の部活動を行ってもよいという方針転換を行いました。今回は国が主導でこの問題の解決しようとしています。10年前と比較して、保護者や学校の理解や意識は変わってきていると感じています。20年前にもありました、子どもたちの教育と地域スポーツの推進という意識に今一度立ち返って、見直しをする絶好のチャンスだと思いますので、皆様にはたいへんご苦勞をおかけし、お世話になるかと思いますが、何卒ご理解ご協力をよろしくお願いします。

中学校部活動改革と地域におけるスポーツ・文化芸術活動のさらなる推進について 資料1-1、資料1-2にもとづいて説明

(学校教育課指導主事)

資料1-1をご覧ください。中学校部活動については、休日に実施をしない、参加する大会についても精選をしていく等、教育委員会としての部活動改革における基本方針は以前よりお伝えしています。関係団体のご協力、ご理解をいただきながら、学校教育課、スポーツ課、生涯学習課共々、本改革について協議を進めている状況です。この資料は半田市部活動ガイドラインの改定について、市内各中学校に依頼する文書として作成した案です。これまで令和5年度の4月に発出する予定でしたが、少しでも早く学校に情報提供したいことから、校長会議及び定例教育委員会での承認のもと、3月上旬に発出できるよう調整しています。新たなガイドラインについては令和6年9月に施行する計画で

すが、地域クラブ活動体制が整わない場合は、例外として令和 7 年度末までを移行期間とし、旧ガイドラインでの活動を認めます。

新ガイドラインについての主な変更内容は以下のとおりです。

(1) 実施日は平日のみとする。土日祝日は部活動を実施しない。

※長期休業期間中もこれに準ずる。

(2) 実施日のうち、週 1 日以上の休養日を設ける。

(3) 活動は 2 時間程度まで（長期休業中は 3 時間程度まで）とする。

※最終下校時刻は、最長でも原則、17 時 30 分とする

(4) 大会等への参加は、原則、知多地方中学校体育大会および吹奏楽コンクール知多地区大会・NHK 全国学校音楽コンクールのみとする。（上位大会含む）

(5) 原則、朝部活はなしとする。

また、今回の依頼文書には、平日の部活動改革に向けた検討事項も記載しています。同じく、保護者向けのお知らせについても令和 5 年度の 4 月に発出する予定でしたが、3 月上旬に発出できるよう調整しています。3 月 8 日に校長会議がありますので、そこで最終確認し、整いま次第速やかに発出していく予定です。保護者向けのお知らせについても部活動ガイドラインの変更点を示しています。また、休日に部活動がなくなることにより保護者の不安もあるかと思いますので、希望する中学生は、自らの興味関心に基づき、休日に地域でのスポーツ・文化芸術活動に参加することになるという旨も併せて示しています。以上の案内に加え、全体のグランドデザインも添付し、教育委員会のホームページにも掲載する予定です。グランドデザインについては、「地域全体で子どもの多様なスポーツ・文化芸術活動を支える体制の推進」を半田市の目指す姿として、ここに向けて「中学校の部活動改革」と「休日における中学生の地域スポーツ・文化芸術活動の整備」の両輪で改革を行っていき、学校を含め、地域全体で子どもの多様な活動を支える体制をさらに推進していく計画としています。今回の改革では中学生、地域、学校それぞれ

にメリットがあると考えており、単に中学校部活動にある種目を地域で行うわけではなく、中学校部活動にはない種目やプログラムも新たな価値として選択できるよう、ニーズを意識したもので持続可能なものになることがポイントです。体制イメージとして例を提示していますが、子どもたちが好きな活動を選択していくことになりますので、様々な形があると思っています。

(事務局)

資料 1 - 1の最後のページになります。このリストは地域のスポーツ・文化団体に対し、アンケート調査や聞き取り調査を実施し、現時点で、各団体がどういった種目を選択肢として提供できるか一覧にしたものです。部活動改革に向けて、休日にスポーツや文化活動を行いたい生徒向けに、「地域にはこんな活動があるよ」というものを紹介できればと思い整理しているもので、前述の学校関係資料とともに参考資料として配付を予定しています。ただ、現時点のものなので、今後、種目の追加、連絡先、またはその他 P R できるもの等、内容を充実させていく予定です。まず、スポーツ分野については、昨年 1 2 月～今年 1 月にかけて、総合型地域スポーツクラブ及びスポーツ協会加盟団体に対し、中学生の受入が可能な種目について行ったアンケート調査結果をもとに種目を反映しています。アンケートの回答ベースなので、団体によっては、他の種目等引き続きご検討いただいているかもしれない部分は掲載されていないものもあるかと思うので、改めて確認させてください。続いて、文化芸術分野については、生涯学習課が半田市文化協会をはじめ、吹奏楽は半田ジュニアブラスバンド、合唱では半田少年少女合唱団と調整を進めています。また、アンケート調査の結果については、後ほど説明させていただきます。続いて、**資料 1 - 2**については、昨年 1 2 月にスポーツ庁及び文化庁が発出した部活動と地域クラブに関する総合的なガイドラインです。本資料についてはボリュームがありますので、抜粋したものとになっています。1 ページ目にスポーツ庁のホームページを紹介していますので、QR コードもしくは U R L から資料一式ご参照いただくことができます。2 ペー

ジ目以降ですが、概要やイメージ図等が掲載されています。概要の中にも書いてありますが、「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる」という意識のもと、学校を含めた地域全体で、生徒たちの未来のため、協働・連携していく必要があると記載されています。それから、地域移行という言葉が強調されなくなりました。解釈の仕方が曖昧であるからか、学校部活動からの水平移行ではなく、部活動の改革で、休日の学校部活動を行わないことで、地域でのスポーツや文化活動等により地域の活性化、新しい価値が生み出されるものと読み取れます。すなわち、半田市が目指す姿は間違っていないと認識しています。また、令和5年度から令和7年度の3年間は、「改革集中期間」が「改革推進期間」へと名称が変更になりました。これは、全国的に自治体によって改革スピードに違いがあるからと推測されます。このガイドライン及びイメージも参考にしながら、引き続き半田市も取り組みを進めて行きたいと考えています。

—————（質問・意見）—————

（加藤会長）

何か質問、意見ございましたら挙手をお願いします。

（池田委員）

部活動ガイドラインの改定において、「例外として令和7年度末までを移行期間とし、旧ガイドラインでの活動を認めます」とのことでしたが、具体的にどのような状況を指すのでしょうか。

（学校教育課指導主事）

特に中学生が参加する地域クラブについて、各地域限定ということではなく、地域外でも横断的に参加することができれば体制は整っていくかと思います。しかし、中学生が違う中学校区に通うとなると、交通費の支援等も検討していく必要があります。現在のところ具体的な案を提示できない状況ではありますが、学校での部活動がなくなり、地域クラブでの活動も整っていない状況となれば、フォローできていない子どもが出てきてしまいます。そういった子ども達をフォローするために設けた例外となります。

	(加藤会長) グラウンドデザインについて、体制イメージの中に活動場所とありますが、施設等が足りなくなる恐れがあると思います。市として、新たに設置することや企業のスポーツ施設を借りる等、何か考えはありますか。 (事務局) 普段、スポーツクラブの活動としてご利用されている学校の体育館や運動場について、学校によっては飽和状態となっているところもあります。逆に空き時間のある学校施設等眠っている場所もあると思っています。現在、市の施設で潜在的に利用が可能な施設について調査していますが、企業の施設についても関りの有る企業との連携や情報共有を行っていく中で可能性を模索していくことができればと考えています。
【議題】 (2) スポーツ関係団体向けアンケート調査等の結果について	(事務局) スポーツ関係団体向けアンケート調査等の結果について、資料 2 - 1、資料 2 - 2 にもとづいて説明 資料 2 - 1 及び資料 2 - 2 になります。こちらは昨年 12 月から今年 1 月にかけて市内総合型地域スポーツクラブ、半田市スポーツ協会加盟団体を対象に実施したアンケート調査の結果です。まずは (ア) スポーツ関係団体向けアンケートから、資料 2 - 1 をもとに結果を報告します。こちらは、中学生の受入が可能な種目・競技等について調査したものの集計となります。先ほどの資料 1 - 1 の最後にある、地域での活動一覧に本アンケート調査の結果を反映していますので、その具体的な中身となります。アンケート結果として、地域での活動を希望する中学生の受入については、50%を超える団体が受入に前向きであり、不可能と回答した団体の中でも、平日の夜間であれば対応可能と回答した団体もありました。続いて、月謝等については 46%もの団体が受入や指導にあたり月謝等の徴収は必要ないとの回答でした。これは、学校体育施設でのボランティア指導が背景としてあるかもしれません。ただ、持続可能な場を作るためには受益者負担の考えの浸透が必要だと感じました。受入可能人数については、25%の団体では人数制限ありとの回

答で、指導者や場所のキャパシティに関する課題が目に見えて分かりました。回答全体を見てみても、活動場所としても普段活動している場所での希望が多く、活動拠点も維持・確保する必要があります。続きまして、（イ）指導者向けアンケート結果を 資料 2 - 2 をもとに報告します。こちらは、指導者のニーズについて調査したもので、総合型地域スポーツクラブ、半田市スポーツ協会それぞれにおいて集計しています。総合型地域スポーツクラブの結果から確認していくと、まず指導者の年代としては、幅広く均等でした。必ずしもリタイア後のライフワークに偏っておらず、仕事や家庭を持っても活躍している人は多い印象です。また、中学生が休日に地域でスポーツ活動する場合に指導者として参加したいかという問に関しては、意見がちょうど半分に分かれました。今、指導しているからといって、中学生も指導できる、やりたいとは限らないという結果でした。さらに指導可能な競技種目については、活動場所や競技人口に恵まれた競技に偏るのは自然であり、ニッチなところをどうしていくかが課題です。報酬の価格帯については、約 70 % の人が報酬を必要としている一方、その他の回答として、報酬は不要であるとの意見も多数あり、指導にプライドと信念を持っている人がいることも窺えました。活動範囲については亀崎中学校や乙川中学校区での希望が多く、偏りがありました。自由記入欄を見ると、中学生を受入れるかどうかより、行政がどういった方法を取っていくのか、という意見が多かった印象です。このことに関しては、情報発信や共有の重要性を改めて感じているところです。次にスポーツ協会加盟団体の結果です。指導者の年齢層については、特段目立ったところはありませんが、総合型地域スポーツクラブの結果と比べて、中高年層が多い印象です。指導に参加したいかという問に対しては、約 80 % の人に意欲があると窺えます。参加したくないが約 20 % に留まっているのは、競技団体という性質が強く出ているのかもしれませんが。裏を返せば、「部活動」という競技志向が強い活動体系が下りてくることを期待しているという見方もあります。指導可能な競技種目においてもその他として、ライフセービングやトライアスロンという回答がありま

したので、部活動にはない新しい価値を生み出すものとして期待できます。報酬の価格帯については総合型地域スポーツクラブと同じような回答でした。活動範囲については、総合型地域スポーツクラブの結果と真逆で亀崎中学校区及び乙川中学校区以外の地区を希望されている結果となり、うまく合わせれば全市的にバランスが取れるのではないかと期待しています。全体としては、様々なご意見を聴取できましたが、知らないところで有意義な活動をしている団体の把握ができたこともあり、地域スポーツの可能性は広いと感じました。さらに受入側に対し、地域クラブ活動について、周知・理解促進をさらに行っていく必要があると認識しました。また、自由記入欄を見てみると、特に、水平移行ではないという点は強調し、各団体のリニューアルのきっかけになるという視点も浸透させていく必要があるとも感じました。引続き、課題等をこういった形で行政として支援できるか具体的に検討・整理していきます。皆様においては、引き続きご協力のほどお願いできればと思っています。何卒よろしくお願いします。

(質問・意見)

(加藤会長)

何か質問、意見ございましたら挙手をお願いします。

(加藤会長)

月謝等の徴収は必要ないという回答は多いというのは、慣習もあるかと思いますが、受益者負担という考えは必要だと感じます。

(近藤委員)

現在の指導者で小学生を指導している人が多数います。その際には、当たり前のようにボランティアで指導をしている現状があるため、このような回答結果に繋がっているものと思います。

(加藤会長)

会費等についても、地域の実情というよりは、半田市として方向性を示してもらえるとよいかもしれません。

(近藤委員)

地域の指導者は、なんとなく部活動が地域へ移行するという認識でいる人が多いです。具体的にどうなるのかクラブ内でも説明しきれない部分もあるため、団体向けに説明をしてもらえるよいと思います。

(学校教育課長)

以前より、各クラブにおいて会費を揃えることにおける是非については課題となっていました。このタイミングで揃うかどうかというところもありますが、チャンスであるものと捉えられると思います。引き続き検討を行っていく必要があります。

(近藤委員)

指導者をはじめ、クラブに携わる人達向けに具体的な説明をしてもらえると効果は高いと思います。

(田村委員)

市教育委員会から下りてくる資料については、教員の中で周知を図っています。ただ、具体的に何がどうなるかまでは分からないことが多いため、学校内でも部活動検討委員会を立ち上げて、話し合っていく必要はあると思います。また、スポーツクラブの理事会等にも参加させてもらいながら、情報共有を行っていくことができればと思っています。

(村松委員)

各地区の実情に応じてということについては、各クラブで運営形態が違います。市内には柔道教室がいくつかありますが、すべて運営形態が異なります。ただ、柔道を行うということは同じです。各スポーツクラブもそれぞれの特徴を持っているので、子ども達が自由に選べる環境を作ることが重要だと思います。行政としても、各スポーツクラブが円滑に活動を行えるような支援が必要ですし、学校としても使用可能な会場等協力してことが大事だと思います。

(岩田委員)

私はスポーツクラブとスポーツ協会、両方携わっているため、それぞれの視点も含めた上でアンケートの回答を見てみると、スポーツ協会加盟団

体の危機感というものが、スポーツクラブに比べて薄いのかなという印象でした。スポーツ協会でも盛り上げていかなければならないと実感しました。特に指導者については、スポーツ協会のバックアップが不可欠だと思います。

(池田委員)

ソシオ成岩スポーツクラブにある種目は成岩中学校にある部活動の種目をすべて横にスライドするわけではないというのはもちろんですが、半田市全体のスポーツクラブで行っている種目を見ても、ソシオ成岩スポーツクラブで行っていない種目もあります。距離や経済的な問題はあるかと思いますが、半田市全体でカバーしていけるような体制を見据え、課題解決していく必要があると思います。

(加藤会長)

ソシオ成岩スポーツクラブには、部活動にないような種目等ありますか。

(池田委員)

ホッケーはじめ、中学生向けのスポーツ活動以外にも小学生向けの育成事業に補助として中学生に参加してもらっており、キャリア育成という部分でも活動を広げていくことができればと思っています。

(日置委員)

亀崎中学校でも先生たちと指導者が話し合いを行っているみたいです。指導者としてすでに平日も指導している人が、同じように土日どちらかでも指導に携わることも可能であるというような声も上がっているとのこと。

(加藤会長)

スポーツクラブ YOUKI 登録団体の活動として、スポーツ吹き矢やスポーツ鬼ごっこという種目も実施しているので、半田市全体にアピールできると思います。

(渡邊委員)

現状、ボランティアで指導している人は多いと思いますが、私たちより下

	の世代で持続的に指導体制を整えていこうとすると、謝金は必要だと思います。自分の時間がほしいという人が増えていると思いますので、対価がないと、指導者の確保は難しいと思います。各クラブ等の改革を行うにあたり、いい機会になると感じています。 (清水委員) 老人会もボランティアが主体で、だんだんと成り手が少なくなっている現状です。それから、子ども達が様々な選択ができるチャンスを与えることになるので、各スポーツクラブにはそれぞれの魅力をどんどん発信してもらい、子ども達に選んでもらえるような取り組みを進めて行ってもらえたらと思います。行政としても、交通機関等の支援を行えるとよいのではないかと感じました。 (学校教育課指導主事) 半田市内での各団体の活動としても、競技性を重視する活動、または生涯スポーツの一環となるような活動、種目の中でも色々だと思います。そういった多様性に重点をおく体制をこの機会に半田市として構築していく事ができれば、この先10年、20年後には、きっと半田市のスポーツは進んでいる状態となり、子ども達や地域、学校にとってプラスの効果が表れている姿があるかと思います。 (田中副会長) 今日、皆様のご意見や資料を共有した中で、今までぼやけていたものがかなりなくなってきたと感じています。学校部活動からの水平移行ではないとすると、受入側の課題を解決していくことも重要で、協議機関の設立も必要となる場面もあるかもしれません。課題が見えてくる中では、学校と受入先と連携をしっかりと考えていかなければならないと思います。
【閉会】	(加藤会長) 本日も貴重なご意見ありがとうございました。事務局から連絡事項はありますか。 (事務局) このスポーツ推進審議会の任期は2年間となるため、今年度をもつ

	て、現在の任期が満了します。これまで、お忙しいところ、ご出席たまわり、また貴重なご意見をいただき、お礼申し上げます。当審議会ですが、来年度も、引き続き活動していきます。4 月早々には、所属される団体を通じて、委員の推薦をお願いしますので、引き続き暖かいご支援、ご協力をお願いします。
	15 : 15 (終了)